

# 船堀駅周辺地区まちづくり基本構想

～目次～

1. はじめに . . . . . 1
2. 位置づけ . . . . . 2
3. 現状と課題、主な方向性 . . . . . 6
4. 目指すべき将来像 . . . . . 8



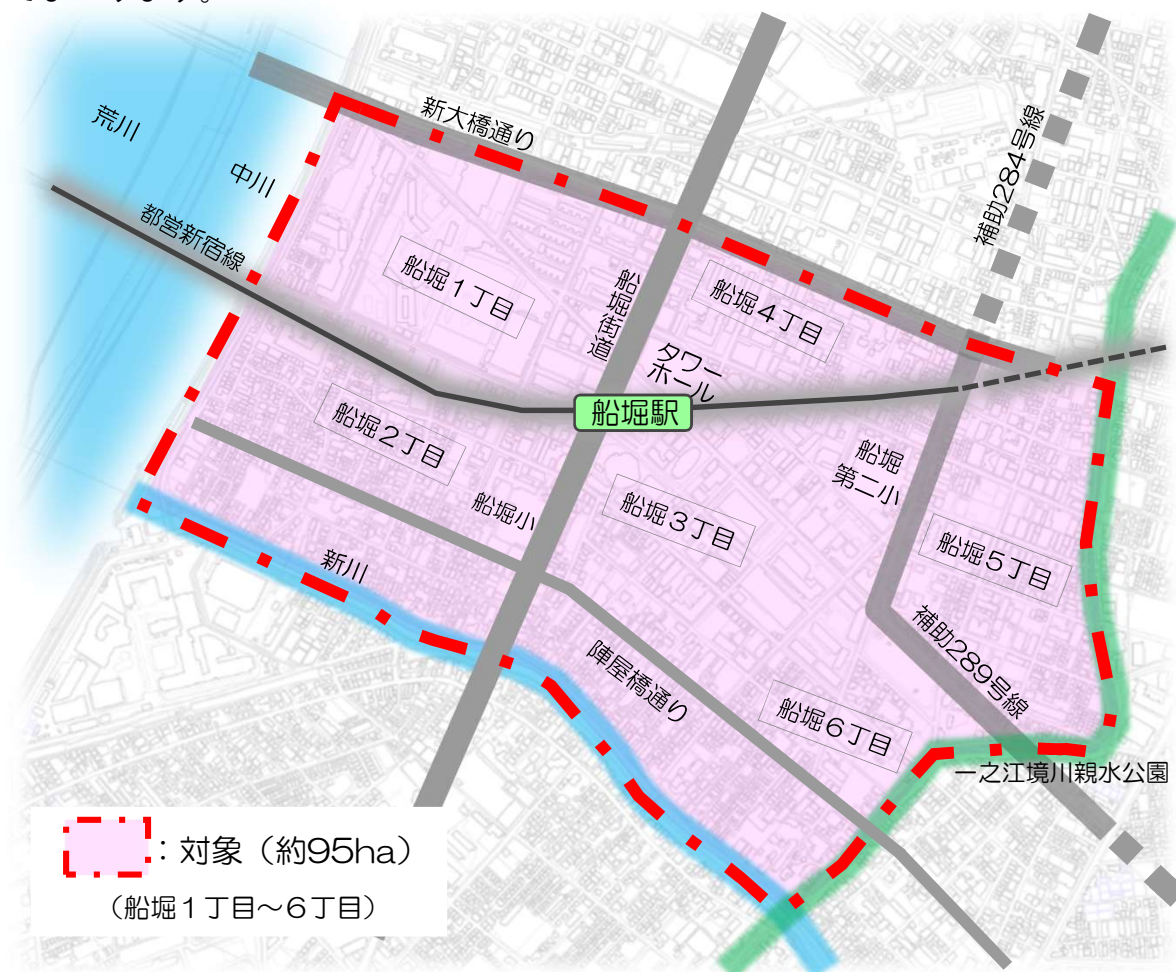
## 1. はじめに

船堀駅周辺地区は、昭和58（1983）年の都営新宿線船堀駅開業以降、都内初の地区計画により公共空間の確保や商業・工業・住宅が混在する地区特性を活かしながら、安全でにぎわいと活力あるまちを形成してきました。さらに船堀グリーンロード、区のシンボル施設であるタワーホール船堀、江戸情緒ある街並みで桜の名所となった新川等が整備され、地域の魅力がより一層高まりました。

本区は、平成31年3月に20年先を見据えたまちの将来像を示す「都市計画マスタープラン」を改定し、区役所本庁舎建設に併せた船堀駅周辺のまちづくりを位置づけています。さらに、令和2年1月より国・東京都は『災害に強い首都「東京」の形成に向けた連絡会議』により大規模洪水や地震等による被害回避に向けた防災まちづくりについて検討を行っています。

これらを踏まえ、本区は、本地区の将来像の実現に向けて、より具体的な検討を行っていくため、「船堀駅周辺地区まちづくり基本構想」をとりまとめました。

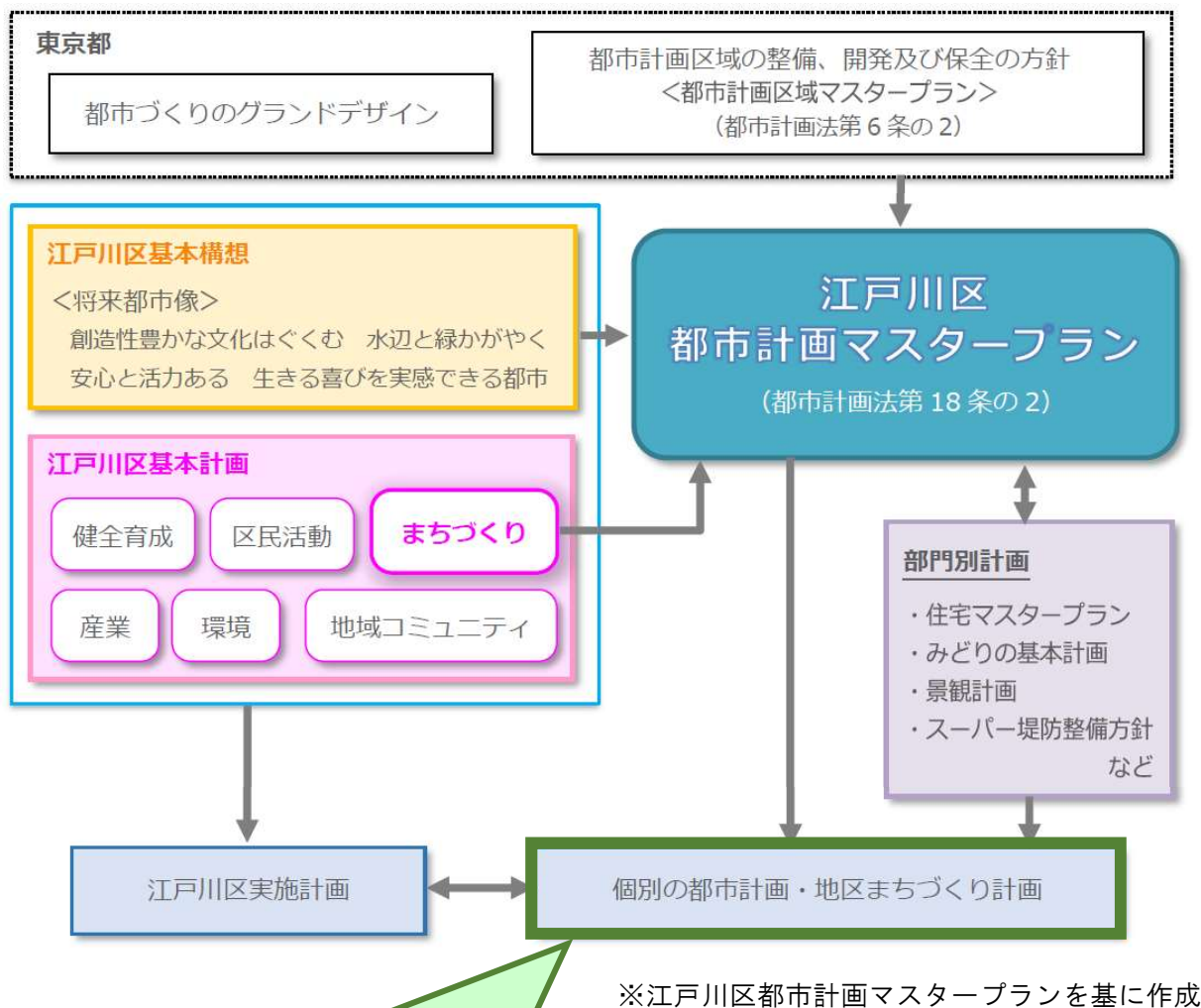
今後は、地域のみなさまと話し合いを重ね、まちづくりの対象エリアや実施時期を見据えるとともに、対象エリアの整備方針を定めるなど、当構想の実現を目指してまいります。



## 2. 位置づけ

### (1) 船堀駅周辺地区まちづくり基本構想の位置づけ

本構想は、江戸川区都市計画マスタープランの将来像を実現するために、より具体的な船堀駅周辺地区のまちづくりの方向性を示すものです。今後は本構想に基づき、地区のまちの将来像実現に向けて、方向性の検討、個別の都市計画の決定や変更を行います。



### 船堀駅周辺地区まちづくり基本構想

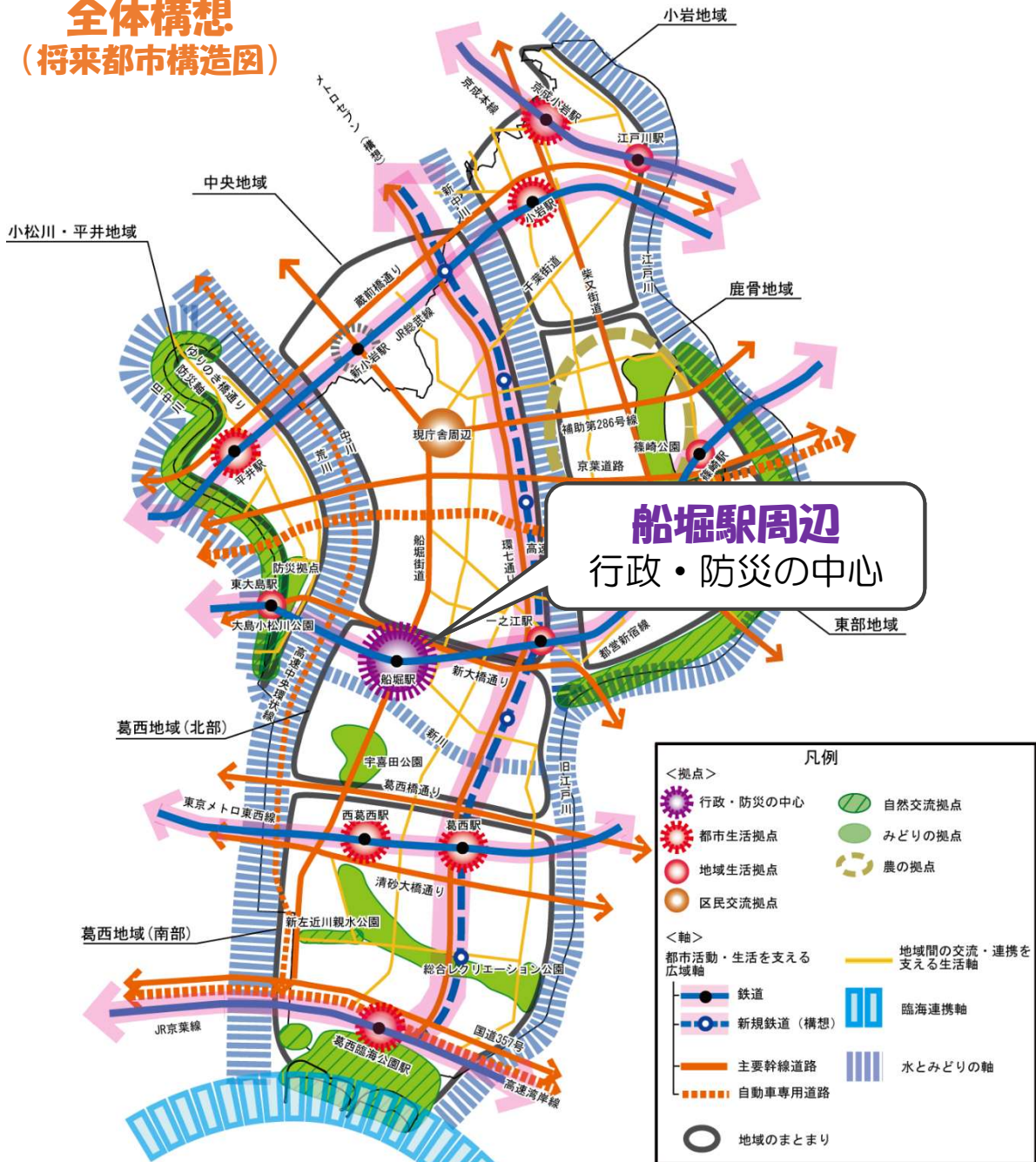
- ・まちづくりの具体的な方向性（まちづくり基本計画）
- ・個別の都市計画の決定・変更  
 （用途地域、高度利用地区、地区計画、都市施設、  
 市街地開発事業 等）

(2) 江戸川区都市計画マスタープランにおける本地区の位置づけ

【全体構想】

船堀駅周辺は、4つの将来都市像を実現するための将来都市構造において、「行政・防災の中心」に位置づけられています。本地区は、行政機能の移転に併せて、商業、業務、文化、居住機能等の集積を誘導するとともに、災害時には区全体の防災活動の中核としての役割を担います。

**全体構想**  
(将来都市構造図)



※江戸川区都市計画マスタープランを基に作成

【地域別構想〔葛西地域（北部）〕】

葛西地域（北部）の主要方針として、「区役所本庁舎建設に併せた船堀駅周辺のまちづくり」と「新川沿川でのまちづくり」が示されています。



※江戸川区都市計画マスタープランを基に作成

(3) 東京都の計画（都市づくりのグランドデザイン）における本地区の位置づけ

本地区は、「中枢広域拠点域内」に位置しています。中枢広域拠点は、おおむね環状7号線の内側の区域で、2040年代には、多様な特色を有する拠点が数多く形成されそれぞれが個性を発揮するとともに、緑豊かで潤いのある複合市街地が広がり、充実した鉄道ネットワークに支えられ、魅力的な居住生活の実現を目指しています。

また、都市づくりのグランドデザインで示した都市像を着実に進めていくために策定された新しい都市づくりのための都市開発諸制度活用方針において、本地区は「活力とにぎわいの拠点地区」に設定されています。活力とにぎわいの拠点地区は、中枢広域拠点内で、鉄道乗車人員の特に多い駅周辺等に商業、文化、交流等、地域の活力やにぎわいを生み出す多様な都市機能の集積を図ります。

#### (4) 『災害に強い首都「東京」形成ビジョン』における本地区の位置づけ

近年、令和元年東日本台風など激甚な水害が発生しており、本区においても、史上初となる避難勧告の発令に至りました。

陸域の約7割が海拔ゼロメートル地帯である本区において、本地区は荒川左岸が決壊した場合、3～5mの高さで浸水被害が発生し、浸水継続時間も2週間以上となることが想定されています。

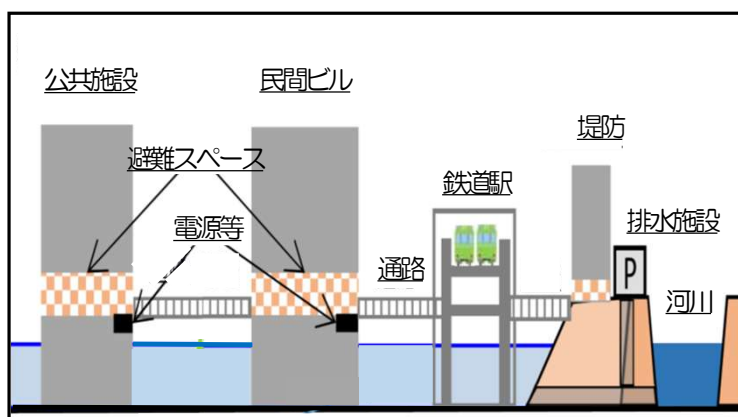
気候変動の影響による降雨量の増加や海面水位の上昇により、更なる水害が激甚化・頻発化することも今後予想されており、これらへの対応は喫緊の課題となっています。

このような中で、大規模洪水等による壊滅的な被害の発生を回避できるよう、ハード・ソフト両面から防災まちづくりを強力に推進するため、令和2年1月に国と東京都が『災害に強い首都「東京」の形成に向けた連絡会議』を設置し、同年12月に『災害に強い首都「東京」形成ビジョン』を公表しました。

本ビジョンでは、建築物の上層階に避難スペース等を確保し、それらを想定される浸水深よりも高い位置にあるデッキ等で面的・線的につないだ建物群を創出することで、災害時における命の安全と最低限の避難生活水準を確保する「高台まちづくり」の考え方が示され、本地区は、高台まちづくりを実践するためのモデル地区に位置づけられました。



江戸川区水害ハザードマップ  
(令和元年5月発行)



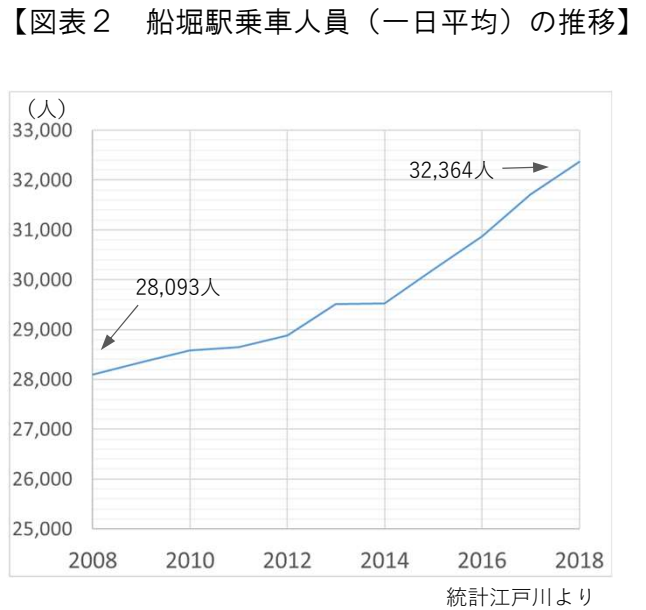
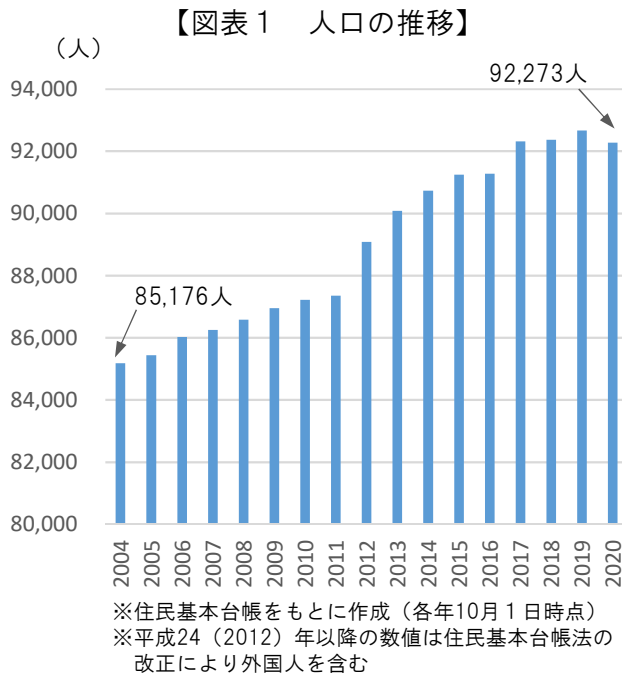
「高台まちづくり」のイメージ

\*「災害に強い首都「東京」形成ビジョン【概要版】(R2.12.15)」を参考に編集

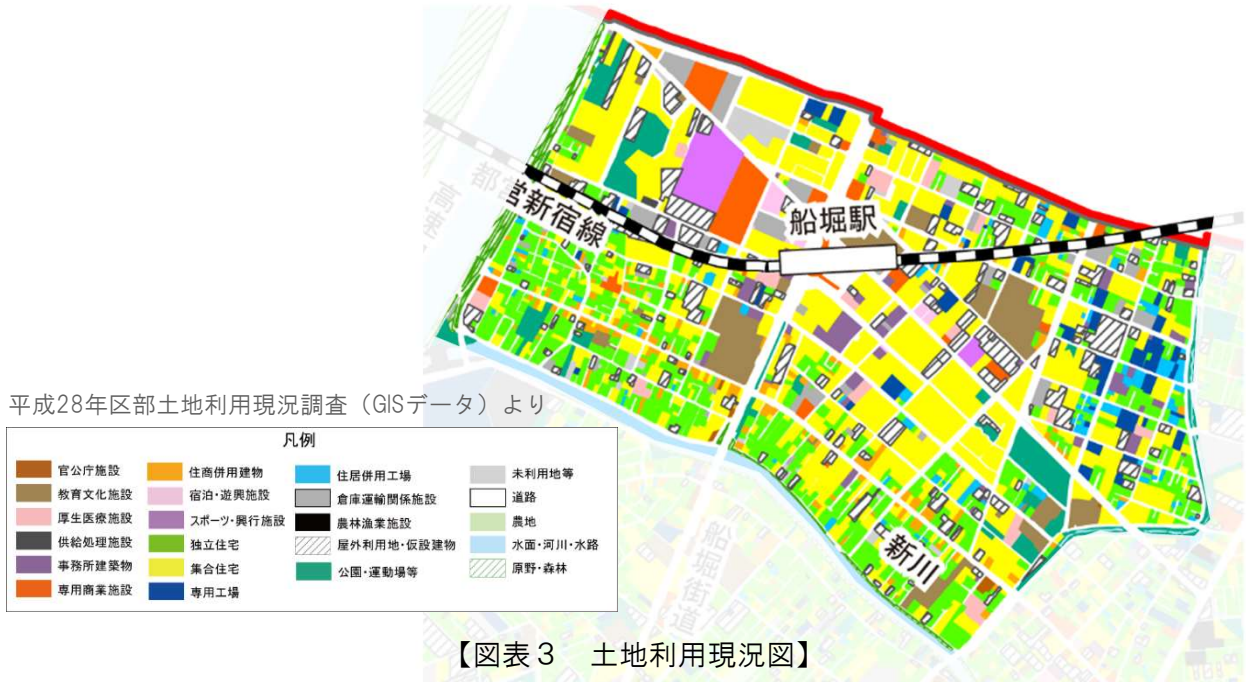
### 3. 現状と課題、主な方向性

(1) 本地区の概況は以下のとおりです。

- ・人口は平成16（2004）年の85,176人から、令和2（2020）年には92,273人に増加し、概ね増加傾向にあります。（図表1）
- ・船堀駅乗車人員は、平成20（2008）年の28,093人から平成30（2018）年には32,364人となっており、増加傾向にあります。（図表2）

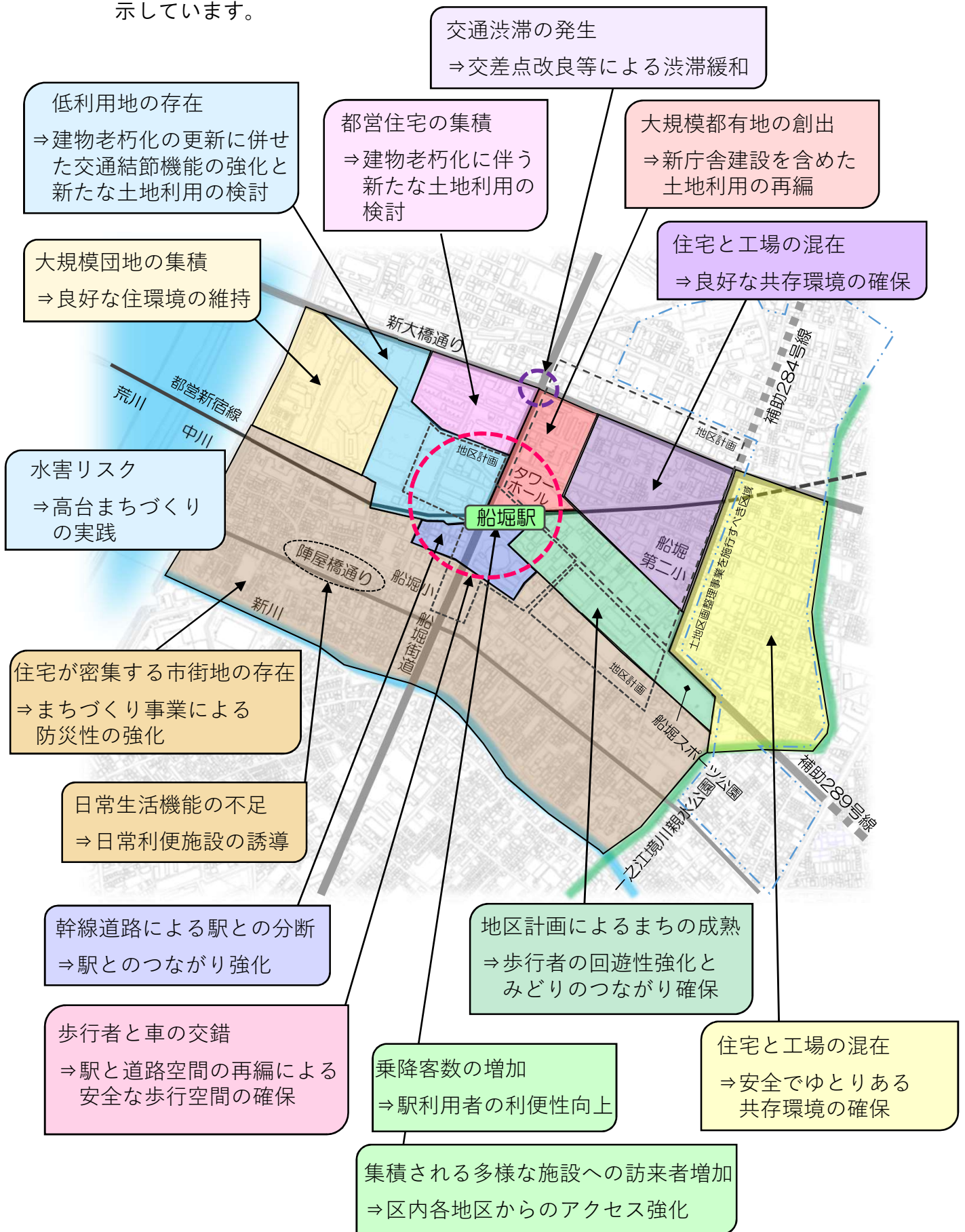


- ・土地利用現況は、船堀駅を中心に専用商業施設や集合住宅が集積し、その周辺は、独立住宅や工場等の土地利用が図られています。（図表3）





(2) 以下は、本地区の現状と課題、課題解決に向けた今後の検討の主な方向性を示しています。





## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



「SDGs」とは、「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称です。17の目標と169のターゲットから構成されており、「誰一人取り残さない」社会の実現に向けて、経済、社会、環境の3つの側面のバランスの取れた持続可能な開発を目指しています。

**江戸川区は、誰もが安心して自分らしく暮らせる共生社会の実現に向けてSDGsに積極的に取り組んでいます。**

## 船堀駅周辺地区まちづくり基本構想

発行年月：令和3年3月

編集・発行：江戸川区 新庁舎・大型施設建設推進室 建設技術課

〒132-8501 東京都江戸川区一丁目4番1号

TEL：03-3652-1151（代表）

FAX：03-5662-1310

URL：<https://www.city.edogawa.tokyo.jp/e082/toshikeikaku/chiki/funabori/plan/koso.html>

データ版は上記URLまたは右2次元コードからご覧ください

